



一隅を照らそう  
6月号

389号  
毎月28日発行

E-mail: info@tougakuin.jp



### 常住此説法

住職 中島 有淳

本年も「つつじ」が良く咲いてくれました。開花は年毎に早くなり、四月の中旬頃が最良でした。以前は月末頃でした花は、ゴールデンウィークの頃にはすっかり終わって多くの方が残念がっておられました。

その昔、夢窓国師は寺に將軍の足利尊氏が観桜に来寺の折、既に桜の花の盛りが過ぎて落胆している姿に

さかりをば見る人のおおし散る桜の  
あとを訪うこそなさけなりけれ

と懐紙に認め黙って呈したといひます。將軍の失望はその三十一文字の歌に、花が散るといふ真実に散りゆく桜の情を学ぶのです。

五月も終わろうとする今は、植木屋さんによる手入れですっかり刈り込まれ、清々しい風が木々を吹き抜けています。

六月に入ると當山の石段上に在る菩提樹の花が楽しみです。その甘い香りは独特で、いつもインドのブツダガヤで見た菩提樹へと連想します。

シツダールタが前正覚山での修行を断念し尼連禪河で沐浴し、村の娘スジャータの供養された乳粥に、弱った身体に生命をとり戻すのです。その後、対岸に移り、菩提樹の下に坐るのです。ここで成道された歴史的な場所が現在立派な菩提樹が悠然と聳え立っています。木陰ではチベットの仏教僧が大勢集まって瞑想したり、読経したり。側らの仏塔の周囲にはやはりチベット人が五体投地しながら礼拝して回っています。

旅行者達はそれらの姿を眺めながら、物売りの子供達に囲まれ、その雰囲気を楽しんでいる。そんな場面が一気によみがえってくる。そんな菩提樹なのです。

遠い昔の思い出となつてしまいましたが、その光景は現在どの位変わったのか。もしかしたら、それ程変わっていないのではないかと変わるとしたら、どんなところなのでしょう。この聖地巡礼はこの地で仏教が生まれたという事実であり、私にはとても大事でした。インドの地は今でも沢山の聖地があり、心の故郷です。

### 仏はいつも此処で説法している

「われ、仏を得てより 来 経たる所の 諸の劫数は

無量百万 億載阿僧祇なり。

常に法を説きて 無教億の衆生を教化して

仏道に入らしむ それより 来 無量劫なり。

衆生を度わんがためのゆえに 方便として涅槃を現わすも

しかも実には滅度せずして 常にここに住して法を説くなり。われは常にここに住すれども 諸の神通力をもつて 顛倒の衆生をして 近しと雖も 見ざらしむ」

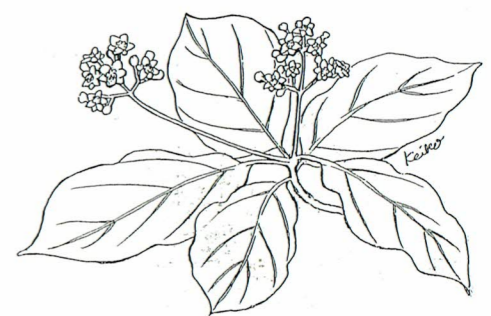
法華経第十六「寿命品偈」

### 折りふしのはな

#### くすの花

茂れる葉に 見え隠れしながら そつと咲いているくすの花 こんなに静かな花が やがて 実を結び 大木になるまでに 一体どれくらいの時間が かかるのでしょうか

本堂のお不動さまは今でも時おり フツとくすの木の香りがします そんなに心配しなくて大丈夫 どつしりと構えていればいい。か (遊)



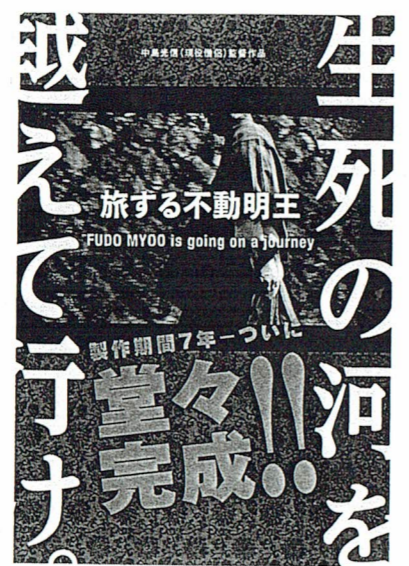
### 月例行事案内

- ◎八 日 午後二時 薬師如来祈禱会 観音経読誦
- ◎十一 日 午後二時 智泉院法要日(於・日本橋茅場町)
- ◎十八 日 午後二時 観音経読誦法要(於・神木観音堂)
- ◎二十八 日 午後二時 不動明王護摩供修行

\* 毎朝六時より公開で朝のお勤めをしております  
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

どなたさまでも  
ご参詣下さい

月例「止観(坐禅)会」...  
6/20 (土) 9:30~10:30 (500円)



あとがき

○五月にあった米中首脳会談は世界中の注目でした。動のアメリカと静の中国といった図式で、世間の判定は中国側が優勢でした。いずれにしても、両国があたえる影響は計り知れません。

○『準西国稲毛三十三所観音霊場』のご開帳はお陰様で賑やかな二週間でした。無事終了し、ご尽力頂いた方々に心より御礼申し上げます。また、ご開帳と連動して、溝の口の『大山街道ふるさと館』で企画展「稲毛の観音札所」が開催中(6/8迄)。会場では、當山の信仰を描いた映画『旅する不動明王』のダイジェスト版(約十五分)も上映されています。

○子供のAI利用が急増と新聞に。幅広いAIの活用はどこまで拡がっていくのか当方には想像もできず、信頼する術しかありません。

○大相撲は小結・若隆景(31)が決定戦で大関・霧島を破り、二度目の優勝。ケガで一時は幕下まで落ちての再起は立派。

○六月は梅雨。今年はこれから暑い日が予想されるとか。呉々も水分を取ってお大事に。